事後研記録

6月23日（金）5限	公開研	教科	2年 国語
授業者	協力者	指導助言者	司会・運営
釘宮　里枝 教諭	花坂　歩　教授 （大分大学）	瀧口　忍　指導主事 （大分県教育庁義務教育課）	井田 高橋
学習内容（題材）	中学生は「日本のコロナ対策」をこう総括する！ 話すこと・聞くこと・話し合うこと「討論」		
本時のねらい	互いの立場を尊重し話し合うために必要なことを，対話型論証モデルを用いた模擬討論を観察することを通して，見出すことができる。		
協議の柱	問いの工夫は，学習者が問いを持ったり，問いを持続，深化していったりするために有効であったか。		

【生徒による発表】

酒井：建設的な討論をする時にどのような問いを持ったらいいのか。司会者や発表者が円滑に進めていくためにはどうしたらいいのか。
中川：発表者と司会者がどのような工夫をしたらよいか。

【生徒への質問】・・・・質問への回答生徒【則次・御筆】

質問	所属・名前	回答
自分の立場を支える情報を集める中で、どのような方法でどのような内容を調べたのか。	玖珠中 矢治先生	サイトを見比べながら、ICT端末を使って調べた。 討論に使える内容を考えながら情報を選んだ。 そこから反対の立場を支えるような意見を自分の言葉で考えた。
どのような問いを持ち、どの瞬間にその問いを持ったのか。 自分が持った問いと先生が出した問いとつながることがあるのか。	大分大学 大嶋先生 山国中 藤崎先生	授業が始まる前から持っていた問いもあれば、授業のめあてを聞いて問いを持つこともある。 この授業では、「スピーカーとしてどのようにすればいいのか」という問いを、課題が出た後に持った。
「建設的な討論」という言葉はいつ聞いたのか。「建設的な討論」という言葉を理解した上でスタートすることができたのか？	野津原中 櫻井先生	自分の討論に対する考え方を持っていて、それと合わせて考えることができた。
１年次にやったことが今日の授業にどのように繋がっているか。	耶馬渓中 後藤先生	１年次は、一方的に自分の意見を伝えるだけで相手からの反応を受ける授業ではなかったので、２年生になり初めて自分の考えに対して意見をもらった。 情報の扱い方については１年生の時に行っていたので今回の学習にもつながっていた。

次への問いも１時間の授業の中で生まれたか。	大分大学 大島先生	１時間で完結する部分もあれば、しないこともあった。

【質疑応答】

質問	所属・名前	回答
本時のまとめが文章としてまとめられていなかったがどのような意図があるのか。	野津原中 櫻井先生	学習者から出てきた意見をまとめとした。授業者の言葉で縛るのではなくそれぞれの言葉でまとめとした。
真っ向から対立した意見が出た時にどのようにまとめるのか。	長洲中 古川先生	対立した討論になってもよい。相手を打ち負かそうとするのではなく、共通点（合意点）を見つけさせる。
次の時間の流れについて。	玖珠中 矢治先生	同じ論点でメンバーを変えて行う。１５分の時間設定。
ホワイトボードでまとめたのはなぜか。	質問紙からの質問	時間の関係。 より時間が短縮されるのでホワイトボードを活用した。
討論の映像に関して。	北部中 津留先生	台本はないが２回撮影を行った。 撮影をする中で、撮影を行った生徒もどうしたら建設的な討論になるかの疑問が生まれていた。

【協議の柱：問いの工夫は，学習者が問いを持ったり，問いを持続，深化していったりするために有効であったか。】

意見	所属・名前	回答
対話をする力がこれからは必要な中で、映像を見た上で、より工夫する場面が見られたのでとてもよかったのではないか。	玖珠中 矢治先生	
問いを子どもたち自身が引き受けていた上でしっかり１時間の授業を自分たちで考えて活動することができていた。	本耶馬渓中 村上先生	
「問い」というものがどのようなものなのか。 →動機付けの位置づけであるということなのか。	大分大学 花坂先生	生徒自身が、学びに向かうための「疑問」の段階であり、「問い」までの深化になっていない。
授業者が出した課題と生徒自身が持った問いのどちらを優先した方がいいのか。	指導主事 瀧口先生	生徒自身がどのような問いを持っているのか確認することなく進められていた。授業者が出した課題は引き受ける生徒がほとんど。それが一致しているのかどうかという部分は確認していない。

【指導助言： 瀧口　忍　指導主事（大分県教育庁義務教育課)】

・授業者が出した問いを子どもたちが引き受ける。→映像がその場面。
・映像の工夫がとてもよかった。子どもたちが興味のわく内容となっていた。
・「建設的」をどう捉えるかという生徒の最初の意見を板書するべき。それがまとめにつながる。
・映像を見る視点。
・ワークシートが映像を見る時に必要だったのか。映像の内容メモをとる必要はなかった。
・じっくり考える時間が足りなかった。
・「建設的な視点」で映像を見ることができたのか。映像を見る前にその共通理解を全体でするべき。
・授業者がまとめをするのではなく学習者の言葉で出させるとよりよかった。
・討論の時間配分。

【協力者：　花坂　歩　教授（大分大学)】

・授業の最後に本時の授業内容を思い出す／確かめ合うという振り返りもいいが、次に繋がるような未来志向の振り返りがあることも忘れないでほしい。
・本時の討論体験の評価（成果と課題）を生徒自身が丁寧に言語化することで、次時の討論の目的が明確になるはずである。
・集団で取り組む「問い」と個人に生じた「問い」は異なる。違いに留意した授業設計が必要となる。
・教具は指導の有益性を考慮して教師が選ぶ。ホワイトボードにはホワイトボードの良さがある。無理に ICT を使う必要はない。
・新大分スタンダードは C 層の子には有効。大いに参考にすべき。